

## 中学校の漢文教材について

国語教育専修・太田亨

### 1、授業の概観

本授業の目的は、中国文学史の概略を把握した上で、将来、中学校で教える代表的作品を読解し、その特徴を理解することである。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる三つの到達目標を課した。

- ① 中国文学史の概要を理解する。
- ② 漢文訓読（書き下し文）をすることができる。
- ③ 中国の歴史・文学に興味を持つ。

目的及び到達目標を実現させるために、まず中国の長い歴史の中における、各時代の文学の特徴を概説する。そして教科書に出てくる作品を中心に取り上げ、それらを細かに読解し、どのような特徴を有するのか解説し、授業で扱う場合にどこがポイントになるかを学んでいく。

取り上げる作品については、毎時間こちらで用意し、まず訓読漢文を書き下し文に改める作業を課す。はじめは学生自身で読解し、その内容を考えさせるようにする。その後、作者及び作品の特徴、時代背景を解説することによって、いっそう理解を深めるようにする。

### 2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、9項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は39名である。②～⑦について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

- ① シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：39名 なかった：0名）
- ② 授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：25名 まあまあ適切だった：11名 ふつう：3名）
- ③ 授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：19名 まあまあできた：18名 ふつう：2名）
- ④ 中学校で取り上げられる漢文の概要を理解することができましたか。（かなり理解できた：10名 まあまあ理解できた：25名 ふつう：4名）
- ⑤ 漢文訓読に慣れましたか。

（大変慣れた：8名 まあまあ慣れた：25名 ふつう：6名）

⑥ 漢文に対する興味は深まりましたか。（深まった：24名 少し深まった：15名）

⑦ 中学校の漢文教材について、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。

・昔の人たちも自分たちと変わらない人だと思わせることで漢文に興味を持つと思った。

・これまで中学校の段階で漢文の内容が伝わっていないと思う。

・中学生にとって難しい作品でも、そのときに読むことで一定の意味があるのではないか。

・教訓になることがたくさんある。

・中学校では作者の生涯や背景に結びつけて学ぶことが少ない。

・作品の背景を学ぶことで、その作品をイメージしやすくなると思った。

・中学校の時、なぜ漢文を学ぶのかわからなかったが、いろいろな教訓を学ぶことができ、漢文の重要性がわかった。

・論語と史記と漢詩の三本柱が大切。

・わかりやすい授業を行うには、教師の適切な指導が必要だと思った。

・中学校の教材を教えるのは大変だと思った。しっかり教材を理解しないといけないと思った。

・筆者の心情を読みとることが大変だと思った。

・人物像を学ぶことがこれほど楽しいと思わなかった。

・教材はほんの一部の作品だと言うことがわかった。もっと中学校で漢文を教えた方がよいと思った。

・論語では、自分がこれまで習ってきたイメージとかなり異なっていた。

・中学校では難しい教材のように思った。

・故事成語をもっと詳しく知りたいと思った。

・深い教材研究と、生徒が興味を持てる工夫が必要だと思った。

・誤解や思いこみをなくし、正しい知識を教えることが大切だと思った。

・自分の思っていた孔子や杜甫や李白の人物像が大きく変わりました。

・書き下し文の重要性がわかりました。

・こんなに内容が深いのに、実際の現場では文法ばかり重視していると思う。

・作品のできた背景に触れつつ、かつ身近に感じられる工夫をしながら教えることができたと思っただ。

⑧、日本人と漢文について、あなたの思うこと（考えたこと）を教えてください。

・日本人の思想などは、ほとんどが漢文に通じていると思った。

・日本人に漢文は必要ないと思っていたが、この授業で払拭できた。

・漢文から学ぶべき事はたくさんあると思った。

・今の日本人は漢文に余り慣れていないと思う。

・日本人と漢文は結びつきが深く、日本人の教養の基礎であると思う。

・生きていた時代も国も違うが、共通の心情や思想が存在していると思った。

・訓読みの視点からも思想の視点からも日本人にとって漢文は大切である。

・日本の古文についての知識にも大きく関係してくる。

・日本人に関係ないと思っていたが、国語を学ぶ中で必要なものだと感じた。

・長年中国のものを取り入れてきたため、切り離すことができない。

・漢文は訓読するときには既に日本語であり、日本の言葉の歴史や考え方を学ぶ上で大切である。

・論語における仁や礼は、現在の日本人でも学び取ることができる。

・漢文は無意識のうちに日本人に染みいっていると思った。

・漢字から意味がわかったりするので、漢文に触れるのは楽しい。

・多少の読解力ときっかけが漢文に親しむためには必要だと思った。

・様々な場面で日本人と漢文はつながってくると思った。

・書き下し文は日本のもの、というフレーズが強く印象に残っている。

・返り点を発明した日本人はすごいと思った。

⑨、授業に対するあなたの意見・感想を自由に書いてください。

(略) 楽しかったという内容が多い

### 3 アンケート結果について

①～⑤の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。質問事項についての回答には、当然ながらマイナスの選択肢も用意してあったことを明記しておく。

本授業では⑦と⑧の意見・感想が非常に重要である。漢文をなぜ学ぶか、ということは誰しもが

悩む点である。日本語が成立する上で、漢文が重要な役割を果たしていることをまず理解してほしいと考えている。「漢文は日本の古典である」ということを常々述べている。その点から、⑧で書かれている学生の感想は、その意が伝わったものだと思っている。また漢文を教えるに当たっては、現代文や古文と異なる授業をしてはいけないことも常々述べている。そのためには作品をしっかり読解し、作者の心情と作品の背景をきちんと研究しておくことが大事である。⑦を見ると、そのことを理解している学生が多くいることがわかった。学生の意見・感想から、こちら側の意図が伝わり、三つの目標についてはおおかたクリアできたと考えている。

### まとめ

「中国古典概説」は漢文を学ぶ上で最初の授業になる。この授業において、なぜ漢文を学ぶのか、どのような教材を学ぶのかを理解し、高学年になって実際にどのように読むのか練習することになる。中学校の教材については、論語と史伝と漢詩がメインである。高学年になって漢詩と論語を実際に読んでいくことになる。そして、実際に読みながら、いかに日本人が漢文に深く触れてきたのか、漢文を学ぶ意義を改めて感じ取ってほしいと考えている。

今後の課題としては、もっと深く、効率よく学生に理解してもらうことができるように、扱う作品を変えてみたり、映像資料を用いる工夫を試みたいと考えている。